

住吉名勝圖會

四





住吉名勝圖會卷之四目錄

- | | | | | | | | | |
|------|-------|-----|-------|------|------|------|-------|-----|
| 住吉攝社 | 正印殿之圖 | 船玉社 | 立木之松圖 | 后土社 | 五所御前 | 苗見社 | 大海神攝社 | 國基社 |
| 鉾御前 | 海人子社 | 立聞社 | 惣社 | 侍臣御前 | 神樂所 | 奧天神社 | 大歲社 | |
| 楯御前 | 御井社 | 貴船社 | 若宮八幡社 | 子安社 | 大海神社 | 國助社 | 新宮社 | |



若松社

鳥井

○住吉名所

住吉濱

住吉里

住吉岡

淺澤

長居里

長居濱

名吳繼橋

履石

神木橋

住吉浦

住吉水門

住之江

淺澤小野

長井池

長居瀉

名吳入江

及橋

誕生石

住吉岸

住吉沖

住之江池

淺澤沼

長居浦

名吳浦

名吳海

名吳濱

朴津海

敷津

淺香浦

名越濱

御田

依羅里

出見濱

粉冊野

鵲之橋

名吳門

津守浦

敷津浦

淺香瀉

名越森

細江

依羅原

玉出島

楯ヶ寄

岸野

朴津

津守沖

三三之洲

網子海

遠里小野

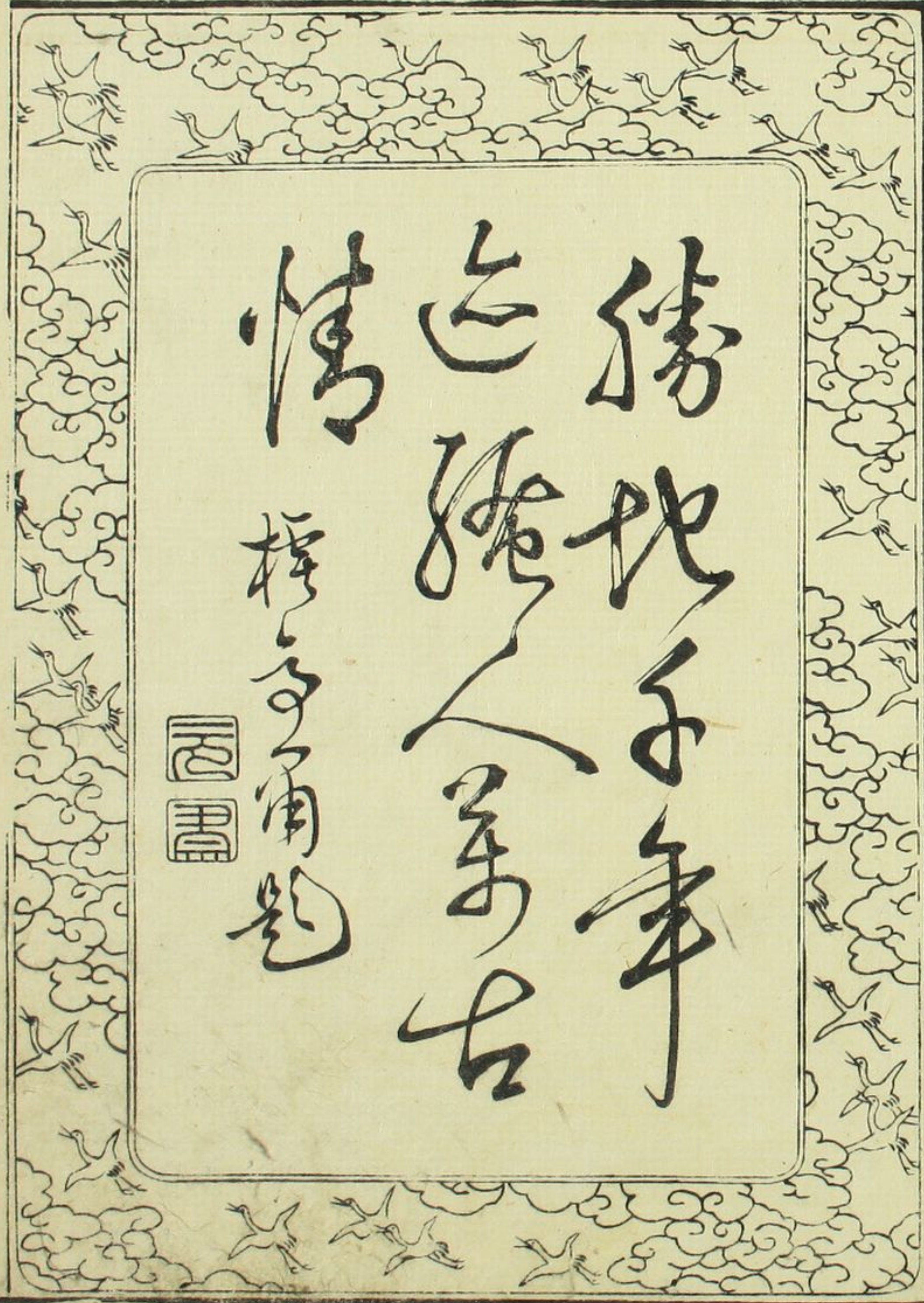
依羅池

依羅森

粉濱

往合橋

岸田



霰松原

岸松原

忘艸

小町茶屋

富士古跡

住吉淵

忘貝

便宜水

ふにこや松

行基松

安倍野

忘水

判官松

松榮亭

以上



正印殿之之圖



鉾御前

三之神殿の北ニ有南向の御社なり

鉾之社と云祭神経津主命

下総國香取大明神是也

相殿ニ廣田明神イサノミコイマテ

楯御前

四之神殿の南ニ有北向の御社なり

楯之社と云祭神武甕槌命

常陸國鹿島大明神是也

○延喜式神名帳ノ楯原神社と云り見テ鉾の社ノ事見ツル

イサノミコノ経津主武甕相殿ニ祭リケル也覺来リテ或説ヨリ鉾の社

船玉社

楯御前の前西向の御社也

祭神天鳥船命 猿田彦大神 鹽土老翁

當社荒魂

延喜式神名帳ノ船玉神社と云り

海人子社

井垣の外南向の御社

祭神市杵島姫 又曰葺不合尊 玉依姫と云

一説ニ葺不合尊と祭ル故ト

御井社

海人子社の南ニ有東向の御社也

祭神彦火出見尊 豊玉姫

立木松の圖



立間社

神田の傍住江山有西向御社也
春日社又長岡の社云

祭神祝主御神也是則

經津主命之別号也

大和國春日社ハ第一天兒屋根命第二姫御
神第三祝主御神第四武甕槌命也

貴布祢社

住江山の下ニ有
南向の御社

祭神罔象女

相殿ニ龍神と祭る

后土社

南神館ニ鄰り
廊下の西ニ有

祭神保食神

神主の館内ニ神あり其名と
后土の本として四月晦日夜霜月

惣社

神供所御蔵
の内ニ祭る

祭神保食神

或ハ三十二神と祭る云

御倉明神と稱奉る
惣ハ倉なりといへり

若宮八幡社

一之神殿の南ニ有
西向の御社

祭神應神天皇相殿ニ武内宿禰と祭る

五所御前

右同

高間原とも云當社の深秘して祭神知りかじ

一説ハ五代地神祭とも又説くハ八百万神と祭ると云

國盛社

若宮の後
西向の御社

祭神國盛

國守大明神と稱奉る當社
大神の荒魂なり

市惠比須社

一之本社の後併の
外ニ有西向の社

祭神事代主命

おもしろの社

神樂所の後
井垣の外ニ有

祭神田裳見宿禰

市姫

子安社

四の神殿の後
北向の社

祭神產靈神 又曰高皇產靈尊

神皇產靈尊

天御中主尊乃三神と祭るといへり

苗見社

三の神殿の北井垣の外
道路ニ有南向の社

祭神宇賀御魂

延喜式神名帳
多木の神社と有

則苗見社なりといへり
寺岡の御社なりといへり

神樂所

東鑑云元曆二年二月十九日住吉神王津守長盛參洛經奏聞去十六日當社行恒例御神樂之間及子三鳴鑄出自第此殿指西方行此間奉仕追討御所靈驗掲焉者歟云云
平家篁千讚岐國志度道場九郎義經追討之時也



大海神社

神宮寺の北隣西向の社也

祭神豊王彦豊玉姬

延喜式神名帳大海神社二座元津守安神有

大海神社攝社

社内西北の角有南向の社也

号志賀大明神祭神底津少童

中津少童表津少童

棟一うて扉三つあり○志賀大明神の三神ハ彦火出見尊豊王彦豊玉姬なり云

奥天神社

大海神社の北隣南向の社也

祭神少彦名命

延喜式神名帳奥天神社あり

○文明十四年十二月廿四日天満宮を祭る是社社の西江梅殿と号し小社なり

國助社

神宮寺の内より有

津守國助とす

國基社

浄土寺の内より有

津守國基とす

大歳社

細江の南より有

祭神素戔嗚尊之御子大歳神

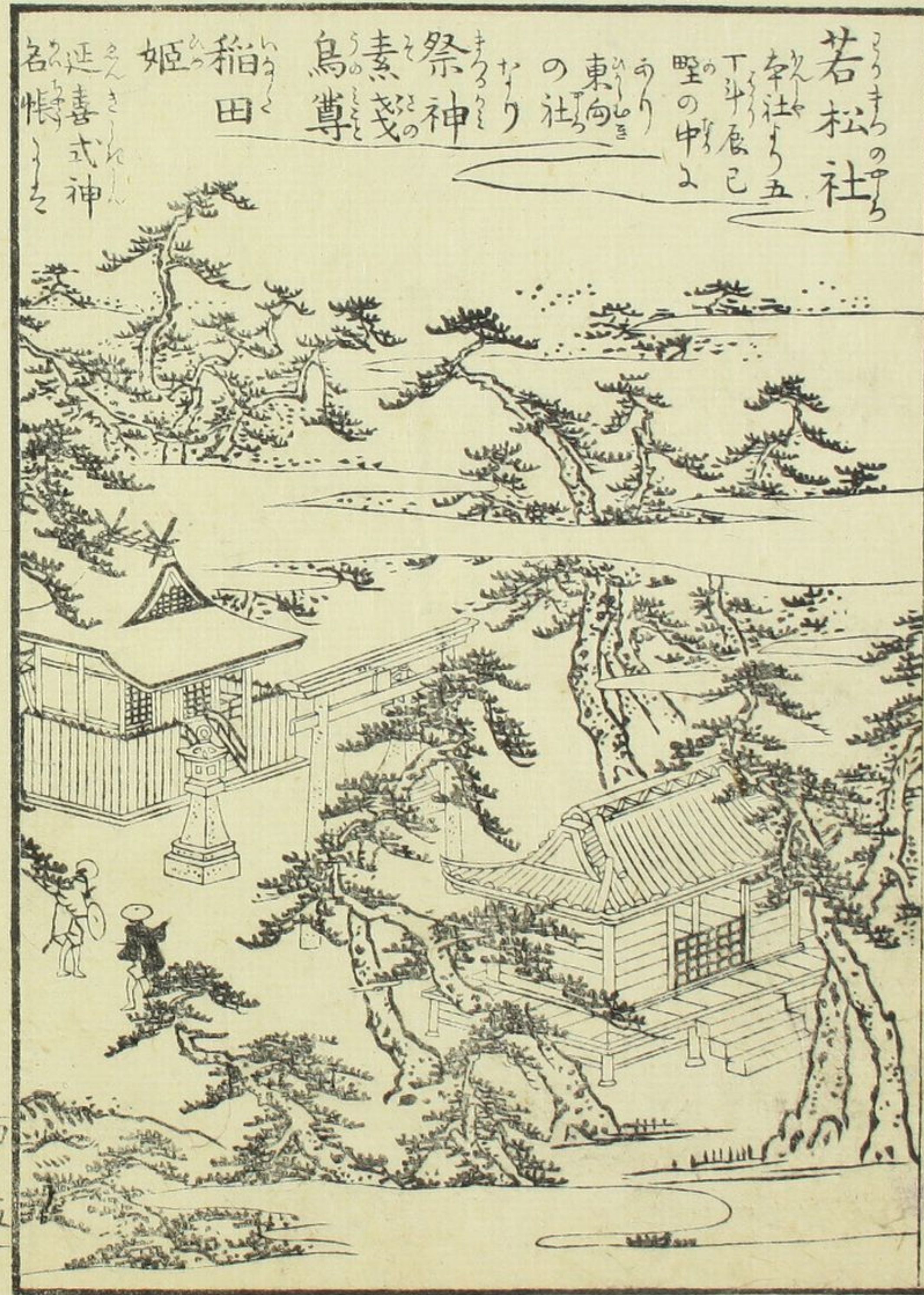
延喜式神名帳草津大歳神社有

新宮社

本社辰巳津守寺の南より有西向の社なり

祭神事解男速玉男伊弉諾尊

伊弉册尊又一神あり深秘して言難



方違社 艘松社 如意御前 甲明神社 三村社

右之五社の塚之部も見也

龍王社 星宮 大依羅神社 山坂社 三百歩社

八祖神社 葺不合尊社 蛭兒神社 火闌降命神社

右之數社祭神繪圖後編み出

履石 神館殿の土倍の説云む 相應和尚登天の時履の留

了處なりと妄説信まなはかみ此説の古き社頭より有奉

反橋 神代高橋の遺製なり天照太神高皇産靈尊

大己貴神と崇敬して造る處なり

鳥井 島本作りと云四方の鳥井とも云本と作れ水

仁年間僧忍性天王寺の鳥井石を作りしより當社の鳥井も元和の御造宮よ今此石の鳥井となれり

神木橋 三韓より我朝へ貢ば奉る時橋と第一の貢と

せより此本河植て神本となれり 勘文も見たり

誕生石 三の本社の側 島津忠久出生の古跡なり 源將軍

頼朝土岐能負娘丹後局と寵愛懐妊以政子方深く

妬み丹後局と失ふと斗る頼朝の臣年々其便なきに思ひ

をせし局とて津の國よ來る住吉の社よつる時局頻く

て産の氣色も見られん本多驚き禱と石上より打掛局と

居る太神より祈誓して安産となり終る産の紐易く

石誕生



解て一男子と出せ其後建久元年十月三日頼朝上治
 の時存多此事を以て詳言に頼朝存多と稱して其子に
 伊賀伊勢の二州を賜ふ同十三年大隅薩摩兩國をわ
 て島津三郎忠久と号はと云

住吉和歌名所

住吉濱 住吉郡住吉

新古今

住吉乃濱此ちこいふ田鶴と

伊勢

住吉浦 同所あり

後拾遺

住吉の浦風いそ吹か

惠慶

住吉岸 同所あり

拾遺

すこりけきの藤浪系やの
 川の梢の色を

兼盛

住吉水門	同所より	夫木 名跡とてねりかきたるすまのの 其のいさむり なる藤と	不知
住吉沖	同所より	後撰 住吉のきりぎりすの沖はふ かとおもふよきとなくとも	元輔
住吉岡	同所より	拾遺 すみけ岡の松並うはれて 雨とらるるもいさむのこなり	祐見
住之江	同所より	續十 あふかき神代もききわたり原 たつともよりの位の江のきり	俊成
住之江池	神田の南蘆原 といふ池是こ	夫木 早とそとえねり家よりあま 秋とらるる位の江の池	慈鎮
浅澤	竜橋獨梁橋 のほりあり	重葉 人ら浅澤の根并り とらるるはさくほり	中官 越後
浅澤小野	大年社細江の 南東の田由と 小野とあり	續千 下りて先とく府人白雲の 岸とらるるたよ摘り	為家





長居里

夫木
の
ゆ
か
り

あ
ま
り

長居の
ま
り

名
と
し

頼
十
ん

法
印
覺
寛



浅澤沼

夫木
の
ゆ
か
り

あ
ま
り

か
き
け
り

あ
ま
り

ま
り

あ
ま
り

師
頼

長居池

野寺村あり
一説云安倍野
街道の方池是也

長居浦

江川流海へ処
の浦云興

長居濱

住吉郡あり

長居瀨

同所あり

名吳浦

同所あり

名吳之繼橋

同所

名吳之入江

手水橋之
下流あり

堀川後百首

すくすきの長井の池より影をて

常陸

新千

秋の末なる浦より影をて

兼昌

夫木

君が代をちの浦の影をて

顯綱

夫木

長井の影をて

信實

夫木

名吳の影をて

俊頼

夫木

少き影をて

顯朝

夫木

名吳の影をて

實清

名吳海

雄略天皇御宇漢儀
吳織屋園より海
をん住名の津より
なる故よ名吳なる
つら車と日輪書
記あり

万葉
名吳乃海や白浪
おほくも

家持



名呉瀨

哥枕
かはしきの

岩

いつの日

なふの

渡り

水

後差我帝



名呉之門

住吉郡住吉

朴津

遠里小野村の南、
朴津の谷、朴津寺の
礎あり、住吉六卿の
いづれか、今名残り

林津海

住吉郡住吉

津守浦

住吉海邊

津守沖

同上

敷津

住吉郡住吉

敷津浦

同上

夫木
吹く風あわしの風を雲にけり

俊成

万葉
あふとくさるるあけの月

住吉のちちりりきし見海サ仕

高市
里人

夫木
武庫の白といはるる人

能因

千載
外代り津守のうらやみ

経ぬんは限るれぬ

隆季

續千
津守の沖と漕舟は

きしは津守のうらやみ

古大臣

夫木
すみの海を渡るのこほり

かきつるさゆる夜半の衣

範季

家業
住吉のしきの浦を渡る

ねりまふみめをさるる

俊頼



浅香浦 遠里小野村の前

浅香瀉 同右

細子海 住吉より十八丁辰己我孫村より

名越濱 住吉郡住吉より

名越森 同右

遠里小野 同右

御田 社地より

万葉 夕れを喰みら末かんほる乃
あさりの浦よ玉もかりてたの
号削子

万葉 浅きもの塩干乃ゆきよおとせば
うもるる色もくくめや
不知

万葉 わきもこの遠はくればはらみの海乃
あし磯のうみ浪葉摘らよこらら
不知

夫木 立よりあを過てふみゆらう那
名越乃塩よりよまある白浪
為家

夫木 水母のちりりの毒乃ゆきん
たふらるかきりともなる有ん
資隆

夫木 早苗の御田の植女もいらく乃
袖はつゝ糸をけけよか城
家隆

細江 長山のりん
竜格の小川

詞花 ちりり

細江
身河
はく

ちりり
まもぬん
ちりり
相模



依細池

任台郡庭井村あり土俗此旧比と宗教して河依細の池といふ
すこの字の聲は依細と稱ん後世に誤りて味香門の池
といふは是れ傳説なり其説と作りて云ひ未嘗門と
いふ者此池に於て死す後此池に於て生るる云々の説あり
ついでに傳へり。依細は依羅の傳へり。此説未嘗

依羅里

住吉郡住吉
らり

夫木
法升り一室一明一室のり
の里乃村のすなり

依羅原

同右

万葉
わさしは依羅原の原よりあつたといひ
後海のり乃のりなり

依羅森

同右

夫木
君り代よりよみのよりかきこころなり
ねり彩りや千を紫なり

出見濱

本社正面の
私原の濱

万葉
任のりも其の原よりあつたといひ
あつたといひのめりてゆりむら

玉出島

當社の深秘
かり

新拾遺
君り代よりよみのよりかきこころなり
あつたといひのめりてゆりむら

粉濱

中在家の
海邊

万葉
任のりも其の原よりあつたといひ
あつたといひのめりてゆりむら

粉洲野

奥天神の北
東の野

家集
あつたといひのめりてゆりむら

楯寄

住吉の浦
のり

名寄
あつたといひのめりてゆりむら

往合橋

住吉新家と
勝間新家の
わ

明玉
あつたといひのめりてゆりむら

鵲之橋

其如不詳

夫木
あつたといひのめりてゆりむら

岸野

住吉郡住吉
のり

夫木
あつたといひのめりてゆりむら

岸田

同右

風雅
あつたといひのめりてゆりむら

住吉乃淵
 河内の國平尾山の
 のふもとに大和川
 のやうなとせは
 恒長の流とあり
 毎三日月言
 位を備満干の日
 とて流れぬと
 く哈かしくわ
 りてあんなに
 のちのちとて
 ともてやう



雲散松原
 安土町

あはれ

霞松原

おひし女

長き子



安倍野 東成郡住吉街道

岸松原 住吉郡住吉

忘貝

忘水

忘艸

便宜水 其處不詳

證歌未考

夫木 佐々乃家の松原とのゆきり
我大君乃降幸しとあり
角蘇

万葉 佐の江に流るる道かきのつが
遠きそれ見とてや有るり

風雅 くもみふらふとてなれもよれぬ
ふみとけりぬとてあはれとて
頼政

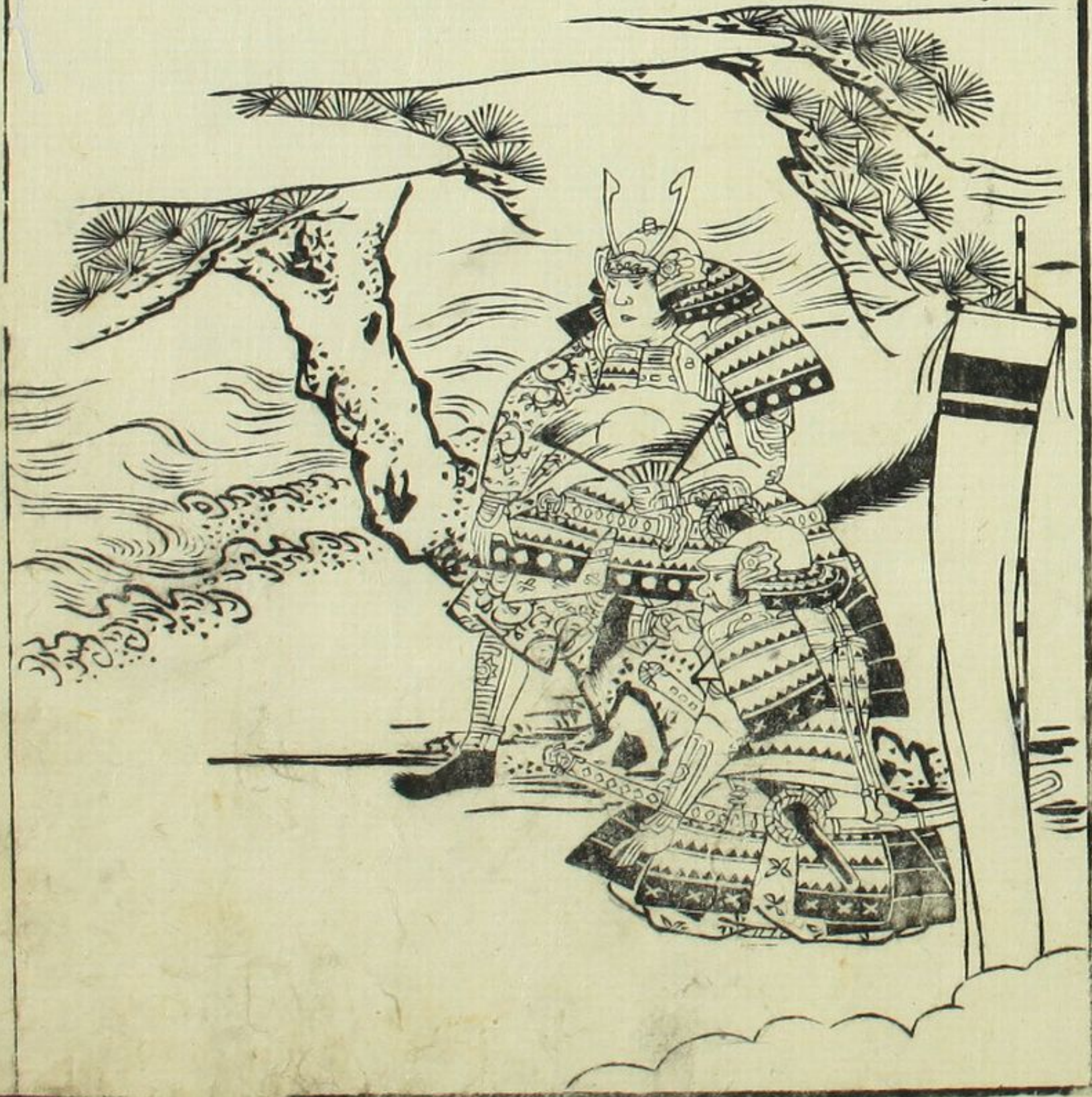
一曰 忘艸又曰水仙又曰青木香又曰山吹又曰相模又曰
紫苑又曰唐芥子二似之 又曰萱艸又曰那忘艸と云有と

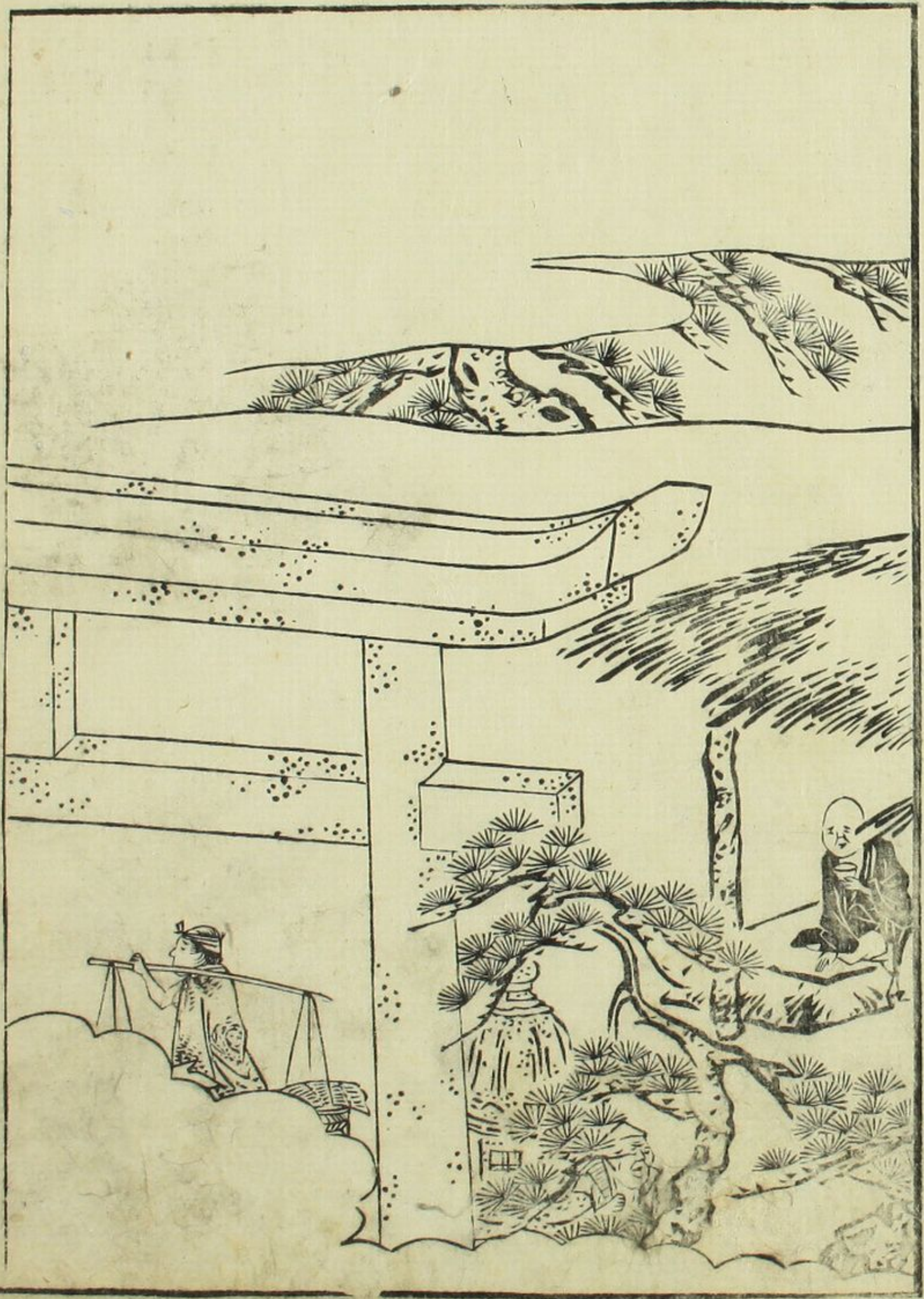
古今 道志はつとてゆん位のは
字ふきふとてさきく
貫之

夫木 丹波とてりたりは林垣や
よる乃ありはとてあはれ
清輔

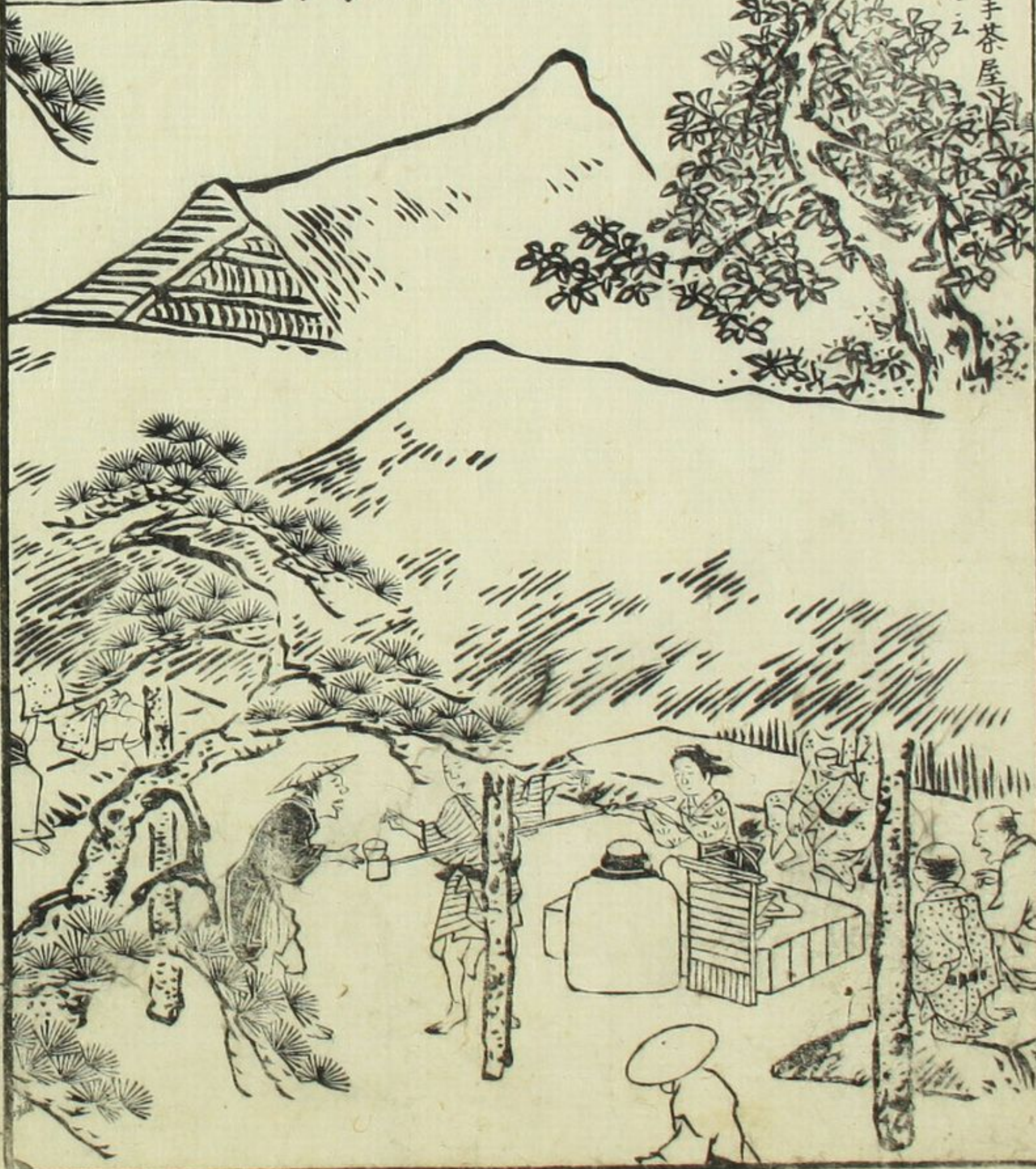
判官松 住吉社地あり

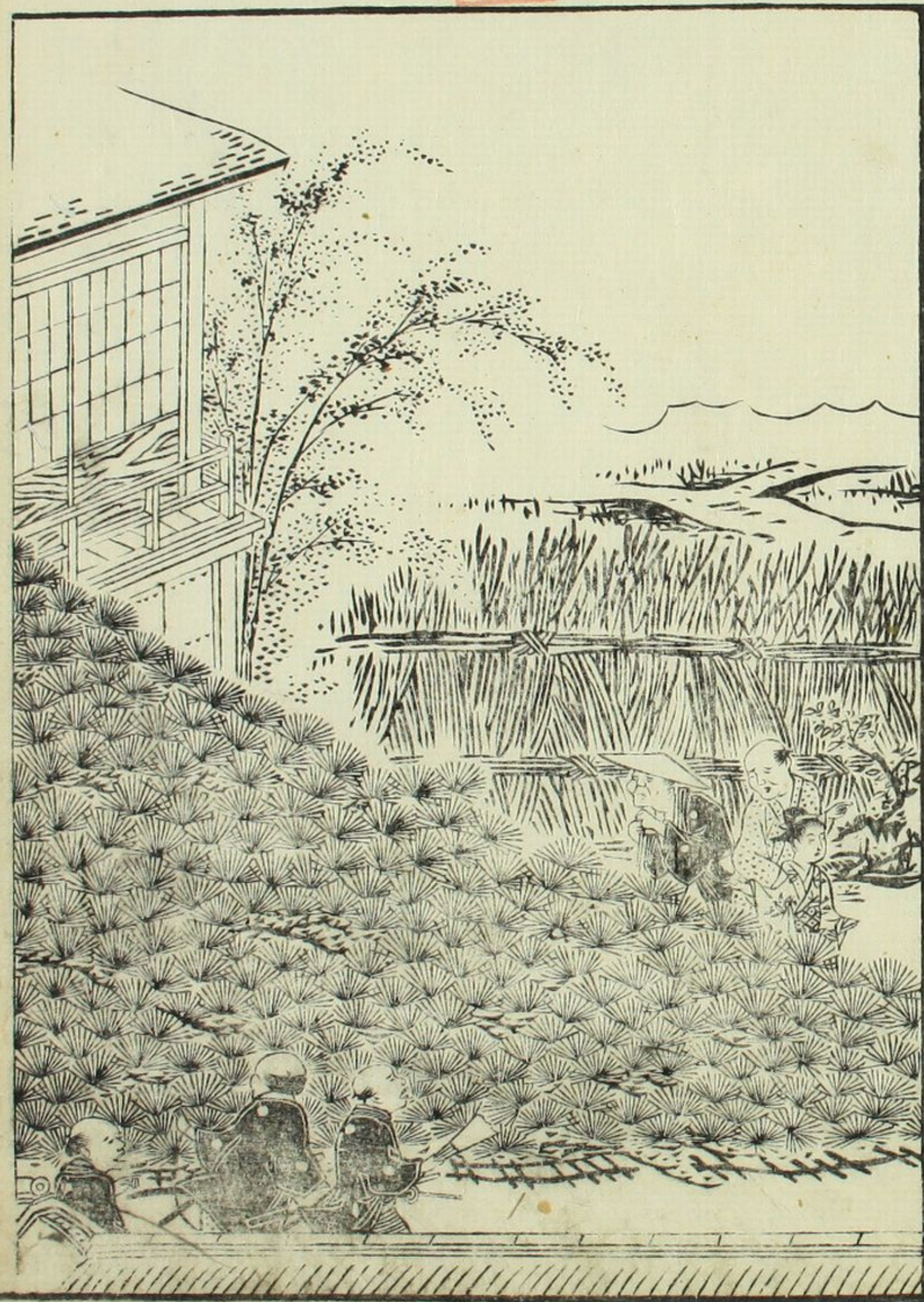
俗傳曰源義経
西國發向の時當
社乃神主親族なり
とてつて爰よりて
此松樹は腰とて
判官松とて又腰掛
松とていふと云





小町茶屋
 其の茶屋
 濃と云ふは
 小町茶屋の
 名茶は
 其の味は
 土のよき
 とも存性
 かくの茶を
 上主人
 かくの茶を
 かくの茶を
 かくの茶を





ふみくやの松
あまのつらぬきあり
ふかふか草生え
似て枝とたれ草
四かすの余目
何ゆかり生来の
旅人室おまわり
足もつらぬ



松榮亭

社務の内より

樂人富士古跡

淺澤のほとり云傳

行基松

倍傳よりむ行基上人と泉州の産なり

安富居くみつ植る處なりと

住吉名勝圖會卷之四終

